

CURES

NEWSLETTER

地域経済
ニュースレター

1997. 7. 25 No.43

巻頭言

大学教員の任期制と大学における研究

上 條 勇

半分はまさかと思っていたが、任期制法案が国会を通過してしまった。これからは、予算の概算要求の必要上、文部省の窓口の曖昧な「示唆」に振り回されつつ、各大学は任期制の制度化に向けた「自主」的改革を強いられることになる。

任期制の導入は、大学予算の効率的配分に向けた、大学におけるスクラップ・アンド・ビルドの促進、それに官僚、民間企業からの「人材交流」の機会創出を目的とする。そして、それは、業績競争によって研究を刺激促進するという考えに基づいている。研究者を

■ 巻頭言 上 條 勇

■ CURES Report

BOOK REVIEW

Hori Kaname. *Nihon seiji no jsshō bunseki : seiji kaikaku gyōsei Kaikaku no shiten*

..... Navin Panda

■ CURES Salon

『現代北朝鮮経済研究へのアプローチ』（金沢大学経済学部研究叢書第10号）

を刊行して..... 龍 世 祥

■ 地域経済文献情報

金沢大学経済学部

鞭打つことによって研究成果をあげさせようという目論見がそこに見られる。しかし、「学歴」の割には金銭的にめぐまれているとも思えない大学教師になるのは、たいていは研究が好きだからである。その点で研究は多くの大学教師にとって自発的なもので、自由でのびのびとした環境のもとでのみ、いい研究が生まれる。工場でモノを生産するのとは違い、強制からは創造的な研究は当然生まれない。研究業績の辻褄あわせのペーパーの氾濫による紙の無駄遣いをもたらすだけである。一般的に言えば、研究の本源的な動機は、知と創造の喜びにある。そして、私の場合、もっとも創造的な発想は、研究機に向かっているときより、風呂やトイレに入っているとき、通勤途中、浅野川を泳いでいるカモをぼーっと眺めているときに浮かぶ。大学教員の管理強化が考えられているが、毎日朝規則正しく出勤簿に判を押し、研究機に向かわなければならぬとすれば、また、首切りの脅しを背景としては、私の研究能率は半減するのに違いない。効率性を叫び、まるで工場生産のように研究も考え、また鞭によって研究を促進することををはかる者たちが日本を支配するとすれば、研究という金の卵を生む鶏を殺してしまうことになりかねない。

大学教員の任期制の導入に当たって、日本全国の大学にはダメ研究者、ダメ教師があふれているような誇大宣伝がなされている。し

かし、どの社会どの企業にも玉石混合の様々な人間が存在するのと同様に、一部にそのような例があるだろうが、それはごく一部にすぎない。先に述べたように、多くの大学教師は、金銭的な要求より、研究が何より好きでその職につき、自発的に研究を行なっている。任期制という強制がなくても、いい研究をしない者は、第一に研究者仲間の中で恥ずかしいし、自己嫌悪に陥らざるを得ない。研究者の間には、単なる業績競争とは違う競い合いがある。この競い合いのもとで、研究は、知的・創造的な意欲と自他にたいする恥の意識から成り立つものである。こうした動機に基づき、日本の研究者は、雑用と教育に追われる中で、研究面でけっこう善戦していると言われている。

ところで、今回の任期制の導入によって真っ先に犠牲になるのは助手であろう。個人的な体験を言えば、私はかつてH大学の助手をやっていたことがある。これは申し合わせで任期制の助手となっていた。2年任期で1年更新でき、結局3年間の身分保障である。オーバードクターの救済処置ということで、とにかく助手は3年の間に必死になって他に就職口を見つけなければならなかった。救済措置としては若手にありがたい制度であると思う反面、私は、いったん助手となって、暗い気持ちになった。なまじ国家公務員として俸給をもらい、社会的地位を得たものだから、

期限切れでそれを失ったときの落差を思うと本当に暗然とした。妻をもち、子供もできたという事情もある。H大学での助手の、とりわけ最後の1年間は、私の生涯でもあまり気持ちのいい時代ではなかった。実際に期限切れで失職したとき、私は、みじめな気持ちになり、H大学の先生、助手、院生と顔を合わすのが嫌になった。職安に初めて行ったとき、係員から、「仕事は自発的にやめたのですか」と訊かれ、どう答えようか迷うと同時に情けなくもなった。

H大学での助手の任期制は違法行為であったが、今回の法制定によって晴れて合法的になる。任期更新があるかどうかという違いがあるが、これからは全国の多くの若手研究者が私のかつての暗い気持ちを味わうに違いない。

研究者として大学に残る道を選ぶということは、若者にとって一つのギャンブルを意味する。オーバードクターという言葉に象徴されるように、晴れて大学院に入学しても将来の保証はない。それでもこれまでは、きわめて厳しい競争をくぐり抜け、大学に定職を得て初めて研究を行う上での安定した基盤を得るという希望をもてた。そしてこうした生活基盤の安定は、自己の能力と勤を頼りに、研究の鉞脈を掘り当てるといふ、不確かな仕事をしている研究者にとって、精神的安定を得る不可欠な条件であった。ところが、任期制

は、それが広範に導入されるならば、この条件を奪い去り、研究者にとって定職を得るまでのギャンブルを、生涯にわたるギャンブルに変えてしまう。おまけに国立大学の教員の給料は、あまり高いとは言えない。現在すでに、民間企業、公務員への就職率のいい、多くの大学の（大学院博士課程をもつ）経済学部では、自己の学部から大学院に残る優秀な学生は少なく、大学院が社会人と留学生で占められるようになってきているという話を聞く。任期制の導入によって大学教員の職がますます魅力のないものになって若者に敬遠され、経済学部が将来深刻な後継者難に悩むことになりはしないか、心配である。

(金沢大学経済学部教授)